

市職労退職者の会

第15回会総会のご案内

日時 1月13日(土) 11時15分
会場 頤和園(大博多ビル12階)

福岡市職労退職者の会は、新年1月を持って結成15周年を迎えます。この間、多くの会員の皆様にお力添えをいただき続けてくることが出来ました。厚く感謝申し上げます。新型コロナウイルスの感染拡大が収まって漸く、これまで通りに新年早々の1月開催が出来るよ



バスハイクで日田祇園山笠会館を見学

たより 66号
2023年12月7日

うになりました。これまで会場として利用していましたが平和楼(天神)が閉店となり、今年4月に開催した第14回総会から博多駅前2丁目にある頤和園(大博多ビル)に変更しています。つきましては、左記のと通りの日程で開催しますので、久しぶりの新年あいさつとなりますが、多くの会員の出席をお待ちしています。

【第15回退職者の会総会】

日時 2024年1月13日(土)

受付 11時より

総会 11時15分

出しもの(15分〜45分)

総会(45分〜15分)

懇親会 12時15分〜13時30分

会場 頤和園(大博多ビル)

参加費 3,500円(懇親会)

申込先 市職労書記局

電話 092-711-4940

Fax 092-714-4013

締め切り 1月11日(木)

*早めの参加連絡をお願いします。

《役員の募集について》

遅れていた役員改選を15回総会で行います。新役員の募集を12月末まで行っています。ご連絡ください!

日田祇園山笠に驚き

11月18日(土)の明け方まで暴風警報も出て乱れた天気は、7時過ぎには青空ものぞかせる天気となり、朝8時45分には参加者29名で市役所前を日田市に向けて出発しました。昨年は交通渋滞に巻き込まれて予定が1時間余り遅れましたが、今回は高速道路もスムーズに流れていて予定より少し早く日田市に着きました。天気は風も収まり、青空が広がり、気持ちの良い散歩日和になりました。

午前



「日田祇園山笠」のの違いなども説明を受け、創業100年近くになる源次郎左衛門では味噌・醤油蔵の製造所を見学しました。昼食は「森のビール園」で上質の焼肉お膳とビールに舌鼓、午後からは外国からの観光客で大賑わいの豆田町を散策しました。豆田町にある「日本丸館」は、江戸時代の安政2年開業の薬屋で、「万能薬の日本丸(につぼん丸)」で成功したそうで、木造三階建の屋上から豆田町が一望でき、昔の家財道具なども展示されていました。

△△山登り同好会報告▽▽

山登り同好会は、11月23日(木)に9人の参加で朝倉市の大平山(332m)に紅葉を求めて登りました。

朝9時半に西鉄朝倉街道駅に待ち合わせて、参加者の車に分乗させていただいて登山口のある甘木公園に向けて出発しました。途中の筑前町松延にある歴史公園で高さ7m余りの「藁の大仏」や前年に作られた「藁の恐竜」も見ることが出来ました。



登山口のある甘木公園は紅葉の名所ですが、今年は少し遅れているようで例年ほどの紅葉が見られないとの事でした。それでも池の周りのモミジの葉は真っ赤に染まって、池面に写る景色と合わせて見惚れる景色がありました。

大平山は登山道がきれいに整備されており、誰でも気軽に登れる山として市民に親しまれ



ている山だそうです。当日は、山頂で大勢の家族ずれ方々や地域の老人会の方々がシートを広げて昼食をされていました。

昼食は、山頂が登山者でいっぱいの情報もあり、近くにある「卑弥呼の湯」でお風呂に入つて、ゆったり気分です。食事をしました。



藁の大仏も恐竜も、地域の方々が毎年収穫後の田んぼで作ってあるそうです。

《北かぜ南かぜ》

労働組合運動の真価が問われる時代

欧米諸国ではコロナ禍で苦しめられてきた労働者・労働組合が、自動車産業・アマゾンなどIT関連企業、小売大企業、公務員労組でも大幅賃上げを要求して長期のストライキを闘い、雇用主側から大幅な譲歩を引き出している。

それに引き換え日本は「政・労・使交渉」とやらで、経団連(財界)に政府が賃上げを要請し(お願いですか?)、労働組合(連合)は政府と財界が敷いた僅か数パーセントの賃上げという交渉レールの上に乗って、まさに踊らされている感が否めない。何しろ、国民からの批判が大きい時の総理大臣を、労働組合の闘う方針を決定する定期大会に来賓として呼んで挨拶(激励)を受けるといふ情けない状況なのである。

日本では失われた30年と言われる時代に欧米諸国は一定の経済成長を果たし、アジアの周辺諸国でも経済成長が急速に進んできた。この間、日本では新自由主義路線の下で雇用破壊が横行され、人材派遣業が拡大し、非正規雇用と言われる不安定雇用の労働者が全労働者の4割を超え、その7割を女性労働者が占めている。人材不足が叫ばれる中でも依然として男女間の賃金格差は大きく、女子労働力の確保が叫ばれる中でも雇用条件の改善が遅れたまま。そのため日本との経済力格差が大きく縮小しているアジアの周辺諸国に働く場を求めて出国する若者も増えてきたと言われる。

少子高齢化が急速に進んでいるのは日本だけではない。中国も韓国も同じく外国人労働力を必要とする時代に入っている。自民党政府は、労働力不足を補うため外国人労働者の雇用を進めるとしているが、その見直しには黄色信号の点滅から、間もなく赤信号に変わる状況だ。日本企業にとって賃上げと労働条件の改善を進めなければ、企業経営が立ち行かなくなる状況がすぐそこまで来ている。